



下和泉小だより

横浜市立下和泉小学校

よりよい未来のためにできること

校長 品川 仁美

去る6月23日、泉公会堂で「令和8年度よこはま子ども国際平和スピーチコンテスト」が開催されました。このコンテストは、1986年からスタートし、国際平和のために自分にできることを考えて作文を書き、スピーチで発表します。各区で行われる選考会で優秀賞となった児童・生徒が、横浜市で行われる本選に進みます。

今年度の優秀賞は、下和泉小学校6年1組の鈴木 湊依菜さんが受賞しました。6年生は、昨年度からスピーチコンテストに向け、作文の練習をしていたそうです。鈴木さんの作文は、素晴らしいものでしたが、コンテストでは聴く人の心に届けたための表現力や制限時間内でスピーチを行うなど厳しい審査基準があります。鈴木さんは、校内で代表に選ばれた後も、よりよいスピーチとなるよう文章の見直しや、スピーチの練習をしました。前日は夜遅くまで、何度も練習したそうです。当日のスピーチは、大変すばらしく、聴く人の心にしっかりと届いていました。「努力は実を結ぶ」という言葉の通りだと感じました。

また、6年生は全員国際平和のために、自分のできることを作文に書きました。子ども達には、社会を変える力があります。今回考えた取組を継続することで、よりよい未来になっていくと期待しています。鈴木さんは、7月22日に南公会堂で行われる本選に出場します。

平和は自分たちで作るものだ

下和泉小学校 鈴木 湊依菜

皆さん、今この瞬間、世界は本当に平和だと思いますか。皆さんが暮らしている日常は実は、奇跡のようなバランスで成り立っていることに、私たちはあまりに無自覚です。日々、ニュースで流れる、戦場の映像。それを可哀想な人たちと言うだけで指先でスワイプして消してしまう。その一瞬の無関心が、平和への妨げだとしたらどうでしょうか。

先日、紛争地で家族を亡くした同年代の子の動画を目にしました。一人の男の子が悲痛な叫び声をあげ泣いているのです。グローバルノートの統計データによると、直近百年でさえ、戦争、紛争による死者数は、数十万人以上。多くの人々が亡くなっています。その時気づいたのです。私は今まで彼らを遠くの人たちという目でしか見ていなかった。自分たちと違う世界の出来事だと、勝手に線を引いて安心していたのです。その自分には関係のないという心が巡り巡って、誰かを傷つける武器の一部になっている。その事実気づいたとき、胸が締め付けられるような思いになりました。

なぜ争いは終わらないのか。それは自分の考えを疑わずに相手を否定するからです。

SNSなどを見れば誰かを悪にして自分の正義を叫ぶ言葉で溢れています。だから攻撃してもいい。そんな身勝手な論理が、小さな喧嘩を大きな戦争へと膨らませていくのです。今の世界に足りないのは、新しい核兵器ではありません。自分だって間違っているかもしれないという疑う勇気と、相手がなぜあんなことを言ったのか、その裏側にある事情を必死に考えようとする心なのです。

私たちはもう誰かが何とかしてくれるのを待つ。というのはやめましょう。平和とは、誰かが用意してくれるプレゼントではありません。私たち一人ひとりが必死に守り抜かなければならない意志です。隣にいる人の、言葉にならない悲しみに気づくこと。その小さな、でも、勇気ある一歩こそが憎しみの連鎖を断ち切る唯一の鍵となります。

未来の子供たちが平和で良かったと笑える世界にするために。そのために私は地域のゴミ拾いでまちを綺麗にしたり、お年寄りや困っている人を助けたりと、自分でできることを率先して取り組んでいます。このような些細なことでも平和の輪を繋げていけるのではないのでしょうか。今一度自分自身に問いかけてみてください。自分は相手のことを考えて接していたか。

自分にできる事はなにか。二度と繰り返してはいけない戦争。私たちの行動で、そして心で、未来を作り上げましょう。皆さんも一緒に一歩を踏み出してくださいませんか。